

# 認知症の人も住みやすいまちに

毎年9月は「世界アルツハイマー月間」、9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。市では、この期間に「なりたオレンジプロジェクト」を実施し、認知症に関する啓発に取り組みます。



JR成田駅前啓発活動(令和4年度「なりたオレンジプロジェクト」の様子)

## 認知症を理解して 地域共生社会を実現

急速に高齢化が進む中、2025年には国内に住む65歳以上の5人に1人が認知症になると推計されています。

そこで市では、健康寿命を延ばすための施策を推進すると同時に、認知症になっても住み慣れた地域で安心して日常生活を過ごすことができるまち「地域共生社会」の実現に向けて、次のような取り組みを行っています。

### なりたオレンジプロジェクト

世界アルツハイマー月間に合わせて、認知症に関する啓発活動を行う「なりたオレンジプロジェクト」を実施します。期間中は、市内事業者や空港関連企業、成田市認知症家族の会(オアシスの会)などと協働して、認知症への理解を広く呼び掛けます。

市では、認知症に関する講座や講演会を開催するほか、市役所本庁舎内に啓発コーナーを設置します。また、職員が認知症の人を支援するための象徴的な色であるオレンジ色を身に着けて、啓発活動を行います。

さらに、9月16日(土)・17日(日)に開催する「成田伝統芸能まつり秋の陣」では、健康測定や、認知症に関する相談などを行うことのできるブースを出展します。

同プロジェクトの詳細は市ホームページ([https://www.city.narita.chiba.jp/kenko\\_fukushi/page/0133\\_00065.html](https://www.city.narita.chiba.jp/kenko_fukushi/page/0133_00065.html))で確認できます。

## そのほかの取り組み

### 介護予防教室「人生カッコよくプロジェクト」

認知症をはじめ、フレイル(虚弱)やロコモティブシンドローム(運動器症候群)を予防する、認知症専門医の監修による総合的なプログラムです。

エクササイズやタブレット端末を使った脳トレのほか、美術などの創作活動といった幅広い内容を行います。

### 認知症サポーター養成講座

認知症に対する正しい知識と理解を広げるための講座です。

対象は小学生から高齢者までで、企業や団体向けにも開催しています。

また、受講者には、認知症サポーターの証として「オレンジリング」を交付します。

### 認知症地域支援推進員

認知症の人の状態に応じて必要なサービスを提供するための関係者・支援機関との連携、認知症の人やその家族に対する相談業務などを行う支援推進員を配置しています。また、認知症に対する地域の理解促進を図る活動も行っています。

### 認知症初期集中支援チーム

認知症の人を初期段階で集中的に支援するため、医療・介護の専門職によるチームを配置しています。

認知症を早期発見・早期治療することで、重症化の予防につなげます。

※くわしくは介護保険課(☎20・1545)へ。